

インフォメーションディスプレイ Vol.8



三田川町商工会
事務局長

福山 馨氏

三田川町商工会 様

平成元年に発見され、大きな話題となった国内最大級の弥生時代の環濠集落跡である吉野ヶ里遺跡。国の特別史跡でもあり、訪れる人が古代の歴史を体感できる国営吉野ヶ里歴史公園を擁する三田川町は、平成18年3月に東脊振村と合併し、吉野ヶ里町として新たな歴史をスタートさせた。



所在地: 佐賀県神埼郡

45型の大きさと高解像度のディスプレイで、複数の商工観光情報を表示して、乗降客への町のPRに役立てています。

PN-455C

1台導入

(吉野ヶ里公園駅
コンコース)

三田川町商工会様では、三田川町と東脊振村の合併による吉野ヶ里町の誕生に合わせて、訪れる観光客の方への観光情報の発信や地域の活性化などを目的として、JR吉野ヶ里公園駅に商工観光案内用のインフォメーションディスプレイを設置されました。

町道としても利用されている駅のコンコースという公共スペースに設置するため、PC一体型の『PN-455C』を夜間自動開閉するシャッター付きの特注什器に組み込んでいます。また、コンテンツの表示や更新、テロップ作成などが手軽に行なえる、インフォメーションディスプレイ マネージメントソフト『e-Signage (イーサイネージ)』も同時に導入されました。



JR長崎本線の吉野ヶ里公園駅2階のコンコース。改札口を出て歴史公園方面に向かうとすぐに、『PN-455C』にて吉野ヶ里町商工観光案内が表示されている。



導入時の評価ポイント

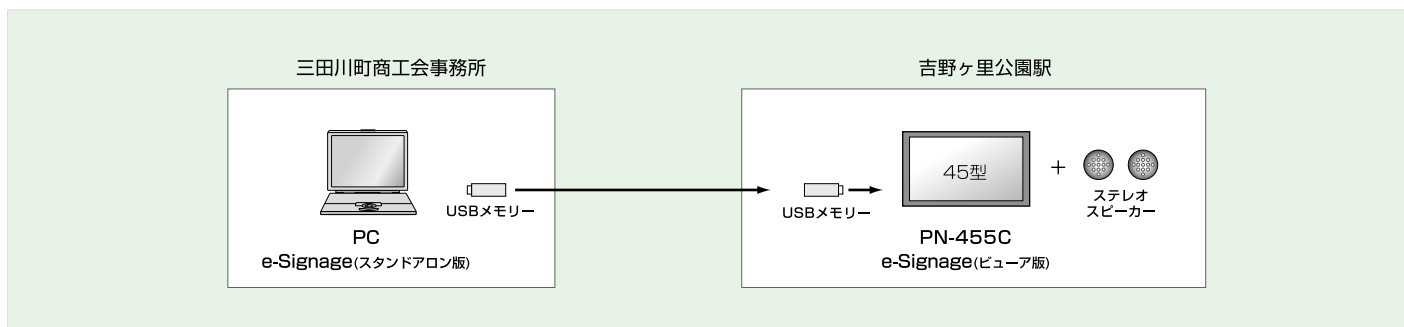
- 明るいコンコースでも見やすい
鮮やかさと視野角の広さ

- 45型の大きさと省スペースで
設置できるPC一体型デザイン

- 細かい文字をしっかりと表現できる、
1,920×1,080画素の高解像度

- 表示内容を手軽に更新できる
e-Signage (イーサイネージ)

■ システム概略図



導入の経緯

町の合併を機に観光案内看板を設置しようと考えていたが、もっとアピールできるものはないか探していた。

「合併して吉野ヶ里町としてスタートするにあたり、あらためて観光名所をアピールし、町の活性化につなげようと、表玄関でもある駅に町と商工会が協力して案内板を設置することになりました。」最初は固定式の観光案内看板で計画を進めておられたのですが、事務局長の福山氏自ら佐賀県内の駅や空港などの施設を視察され、いろいろなディスプレイを比較した結果、『PN-455C』を使ったインフォメーションシステムの導入を決められました。「せっかく設置

するのだから、ずっと同じ案内を表示するだけの看板ではなく、随時更新も行なえる上、スマートな情報発信方法で注目度もアップするのではないかと考えて採用しました。」また、『e-Signage』のシンプルで使いやすい操作性に納得され、コンテンツ表示ソフトとして導入されました。

「e-Signage」で作成したコンテンツは、左側に商工会会員の案内、右側に吉野ヶ里町案内ビデオと観光に関するお問い合わせ先、下側のテロップで商工会からのお知らせを表示している。



導入後の感想

観光客はもちろん、毎日駅を利用している地元の方々にも注目していただいています。

設置後は予想通り注目度が高く、「観光客の方はもちろん、これまでの掲示板はあまり見ていなかった地元の高校生なども興味を持って来ています。」通常の看板ではなく、最新のインフォメーションシステムを設置したことが、町の情報発信への意識の

高さをアピールすることになりました。また、シンプルだった通路も『PN-455C』の明るく鮮やかな画面がアクセントとなり、コンコース全体のイメージアップにもつながっています。



午後8時になると自動的にシャッターが閉じ、午前7時に開く。



組み込まれたスピーカーからはビデオの音声が流れている。

今後の展開予定

観光案内としての使い方にとどまらず、地域の方に対する情報発信スポットとしても活用していきたい。

「導入したばかりでまだ情報の更新は行っていないが、今後は季節ごとのお祭りやイベントの情報なども提供していきたい」とおっしゃる福山氏。また、観光で訪れた方

への情報提供はもちろん、文字や写真をくっきり表現できる『PN-455C』の特性を活かして、地域住民向けの電子掲示板としての使用も考慮されています。将来的には

駅だけでなく、町のアピール、さらなる活性化のために観光情報を発信できる場所への設置を予定されています。

● お問い合わせは シャープ株式会社

情報通信事業本部 ビジネスソリューション事業部
電話：(03) 3260-8217 / (0743) 55-6373

2006年4月発行